

「冒険者」小原海月の挑戦③

「高知県版トビタテ」合格！ フランス留学が決まるまで

グ
ロ
ブ
ア
ル
探
索
通
信

09 号



インスタ
やってます
Follow us!



合格を喜ぶ海月さん(本人提供写真)

G 探 3 年の小原海月さんに迫る企画の第3弾です。今号では、約一ヶ月間のフランス留学が決定した海月さんに、留学を決意するまでの心の動きと、立ち上がりだった壁、フランスの友人について伺いました。

——高知県版「トビタテ」留学 JAPAN(以下「トビタテ」)合格、改めておめでとう！ 海月さんが「トビタテ」に応募しようと思ったきっかけを教えてください。

海月さん(以下「海」)・・・1 年次の末にラーゴ留学に行ったとき、シンブルに「留学ってかっこいい!」と思って。実は帰国した後でトビ

タテの説明会にも行ったんです。ただ、決めないといけないことが多すぎて、その時の自分では応募は無理でした。今思えば、学びたいテーマさえ見つかったなかつたんだと思います。

2 月の G 探最終発表会でのステージ発表をいろんな人がほめてくれて少しずつ自信が持て始めたのと、3 年になって、看護系に進みたい気持ちが固まった時に(医療を留学テーマにしたかどうか)って思いついて。将来は高知県で働きたいし、留学で学んだことで県に貢献できるかもしれないと思うようになって。そこで、高校生活の最後に挑戦してみようと決意しました。

——そうなんだ！ 決めたテーマと、「トビタテ」に提出したプランは、どんなのだった？

海:テーマは「望まない妊娠に直面した若者への支援と、性教育の在り方」です。留学希望国はフランスにしました。

高知県の若者の中絶率は全国よりも高い水準だし、一応の性教育は受けていても、やはり現実とは乖離があります。日本では性の話をするのが恥ずかしい

という風潮・文化があるけど、そのせいで「もし望まない妊娠をしたらどうするのか、どうなるのか」みたいな、自分の人生にとっての大問題に直面したときに、何も分からないまま恐怖だけを感じるようになってるんじゃないかと思う。それを少しでも解決したいと思うようになったんです。

留学先をフランスにしたのは、性教育が進んでいるヨーロッパの中でも、若者への支援体制が特に進んでいるのがフランスだからです！ ただ、提出するプランには「留学先での受け入れ機関」を書き入れないといけないのですが、それが難しかった！ 大体の学生は語学学校に通うのですが、私はフランス語を学びに行くわけではないので、語学学校通学という手段が使えなくて。めっちゃ探して現地の NGO「リプライニング・フアマリアル」という機関を見つけたので、よしメールを送ろう！ と思っても、どの支局に送ったらいいか、メールアドレスが何から分らず、困り果てました……。



エミーさんと海月さん(昨年度)

——それでそれで？ どうやってその壁を乗り越えたの？

海:エミーのおかげです!! 去年半年間うちのクラスに留学していたエミーには、実は当時、既に「トビタテ」に参加したいことも、フランスに行きたいことも、相談していたんです。だから困っていることをエミーに話すと、エミーがその NGO に直接電話をしてくれて、それでやっとメールができました。結果として受け入れを OK してくれて、研修先も、フランス国内に何か所かある事務所の中で、エミーの家の近くにある事務所に決まったんです。

——よかったー！ 聞いててハラハラしました。でもその行動力も、人を頼る力も、エミーとの友情も、すべて海月さんが大切に育てていたのですよ！ 次号で海月さん特集もラストです。ぜひご覧ください。



エミーさんのことを話す海月さん